マチに学び都市を楽しむ／まちづくりNPO

特定非営利活動法人 もうひとつの旅クラブ

2022 年度(第 21 期)事業報告書

ーはじめにー

今年度の運用は、昨年度の総会資料「はじめに」（同・項目 10. 財源確保と課題）などで挙げた、次の事柄に焦点した事業年度となるよう留意した。

■昨年度総会資料（上記抜粋）
ー参加型社会が意味するところのイメージは、この NPO が組成された約 20 年前とは様変わりし、活動スタイルは多種多様に進化した。
ーさらに言えば、カタチ上組織化された活動に与するよりも、各個々人の自由意志で、その時その都度ごとに、自分自身の生活スタイルに合致させて「自由な意志に基づいて」参加する場合もごく普通の姿になっている。

よって、これらに整合する制度的事柄として、2023 年度から「正会員歴 10 年以上・年齢 65 歳以上の会員」向けに、新たに「名誉会員」制度を発足させ、該当する会員が希望すれば「議決権のない⇔もって会費支払義務のない」名誉会員の仕組みを機能させるとともに（自由意志に基づく「参加」は可能)、「しんどくない活動スタイル」の具体像を月例会議で議論し、これらを全員一致で方向付けた。

このような確認は、ひとえにこの NPO 活動の新陳代謝、有り体に言えば「世代交代」を促すための確認であり、活動を「なまける」ことを主眼にしているものでは毛頭ない。その証左に、都市おおさかの「本来的な価値のありか」を具体の行動によって探求する「この NPO 設立の本意ーもうひとつの旅ーご来光カフェ」の価値を再評価し、実行したことは、そのことを証明できる活動であったと確信する。

1. 旅クラブが 2022 年度に取り組んだ事業実績

以下が 2022 年度に取り組んだ主な事業である。

（1）「なにわ百景⇔未来景」の企画協力
（2）「ご来光カフェ 2022」の企画・運営
（3）「大阪まち遊学 2022」の企画・実施
（4）「大阪川床・北浜テラス」の運営支援
（5）「もうひとつの旅～新潟県糸魚川市」の実施
（6）情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を以下に報告する。

（1）「なにわ百景⇔未来景」の企画協力

前文に掲げた認識から、2020 年度に自主研究として「コミュニティ“が”デザインする“場”の未来／GABA 研究会」を 3 回開催した。また、同時期に実施された大阪市の大規模公園サウンディング調査に応じ、事業的な提案を試みた。なお、この自主研究に対して都市環境デザイン会議（JUDI）より公募型プロジェクトに採択され、助成金を得て、2020 年 7 月 23 日に発表会を開催した。

不十分なものではあったが、「しんどくない活動スタイル」の実践を試みた。その企画の中身や運用スタイルは「キタのまちのニュースレター」No.6 などで示されていたが、それが「試み的」であったため、「しんどくない活動スタイル」の実践は機能不全に終わったと言わざるをえない。

この理由は、これら一連の企画そのものが「成功するかどうかわからない不安」を常に抱えている中で、どこをどのように「共同化すればいいのか」・・・そのタイミングを「測りかねる」というところにあった。これは、「旅クラブ」が「主催や共催」の名義を必要とする組織運用をめざすのか、それとも、名実ともに「しんどくない活動スタイル」のもと、「楽しむこと」に主眼を置いた「個々人の共同参加（この場合「協働」は当たらない）」で良いのか・・・この点に、踏み込んだ確認を取らなかったことに起因する。

【事業内容】

・名　称：「扇町マナビバ・なにわ百景⇔未来景」
・日　時： 2022 年 3 月 12 日(土)～3 月 13 日(日)10～16 時
・場　所：大阪市北区民センター
・内　容：浪花百景 20 景のタペストリー展示
・主　催：大阪市北区民センター・大阪市大淀区民センター

OSAKA 生涯学習情報誌
「いちょう並木」2022 年 3 月号

キタのまちのニュースレターno.6
2022 年秋-冬号

キタのまちのニュースレターno.3
2022 年冬-春号

2023 年度においても、資金面を含め「この事業主体」から・・「事業については、実施する方向で進んでいる」との連絡が入っており、（新年度においては）＜そのタイミングを「測りかねる」＞と言うことにならないよう、それらの連絡・確認を緊密に取りたいと考えている。

【主担当】李理事長

（2）「ご来光カフェ 2022」1 週間だけの夜明け伝説　の企画・運営

【事業趣旨・目的】

市民共有の資産である「中之島の水辺」を舞台に「都心の自然」という魅力の発掘を行い、水辺という公共的空間の過ごし方、使い方を多様な側面から提案してきたご来光カフェの企画・運営主体を長年主体的に関わってくれているボランティアスタッフを中心とする「ご来光カフェ実行委員会」に委ね、後方支援や新スキームの検証、それらの調整過程を事業に位置付けて、4 年目の実施となった。今回もコロナ禍に加えて厨房エリアのない状況にての開催であった。ご来光カフェは今回で 17 回目の開催である。

【事業内容】

・期　間：　2022 年 9 月 30 日(金)～10 月 5 日(水)
・営業時間：5:40～7:00
・場　所：大阪水上バス淀屋橋港桟橋
・内　容：①桟橋の設え、準備日程や各種手続きの指導や協力
　　②カフェ期間の運営に対する協力
　　③専用ホームページや Facebook による PR の協力
　　④継続的な開催のための賛同者・ボランティアスタッフ募集・運営の協力
・実施主体：ご来光カフェ実行委員会
・協　力：大阪水上バス株式会社、NPO 法人もうひとつの旅クラブ

【事業成果】

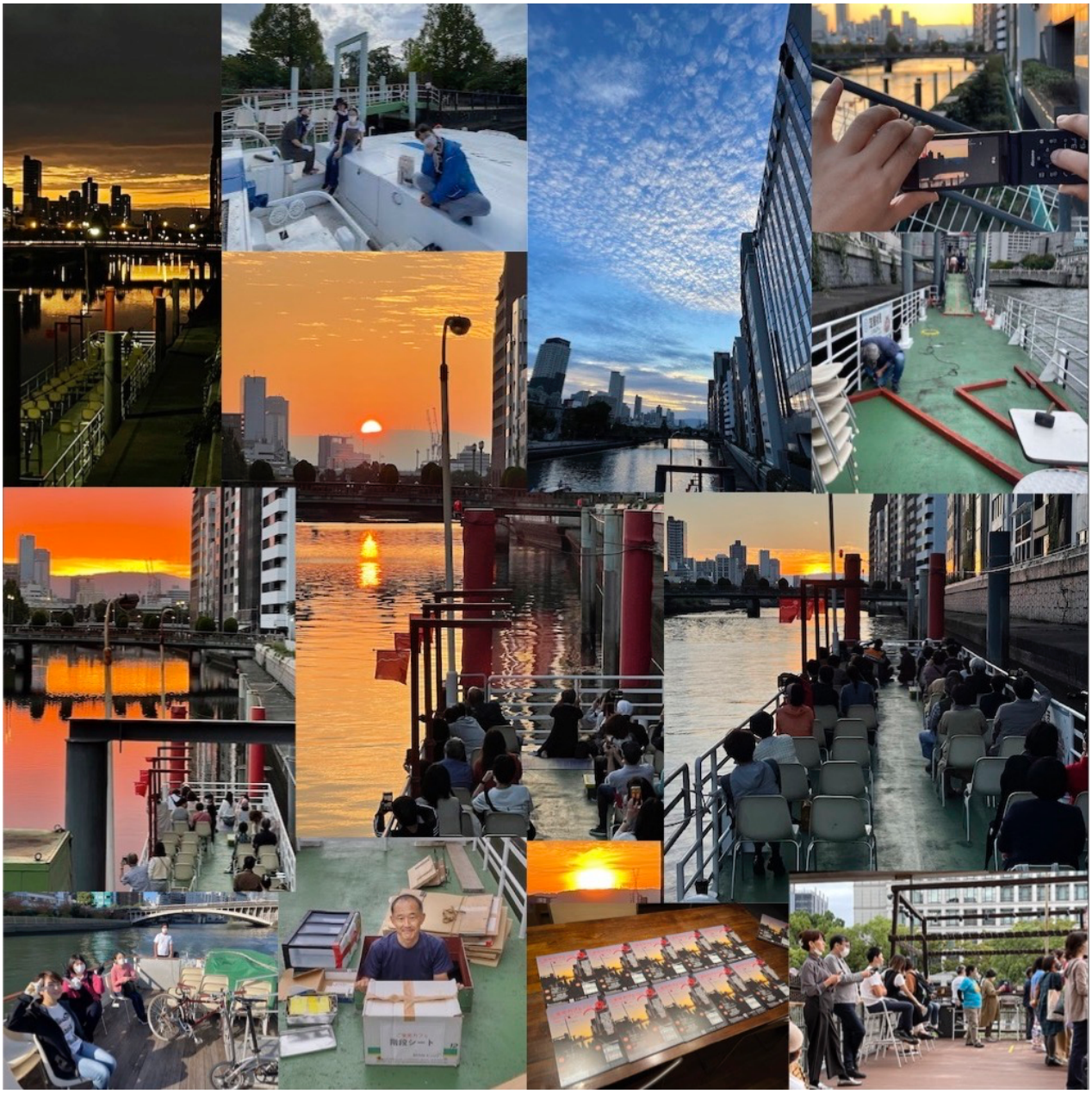
2022 年も 2021 年と同様、他所で淹れたコーヒーを 50 名限定で無償提供、お客様には運営協力金のお支払いを依頼するかたちでの開催となった。来訪者やカフェ空間の消毒、座席のレイアウト・誘導管理による過度な接触の回避、営業時間の短縮というコロナ仕様は今年も同様である。

ご来光カフェ期間中の来訪者数は 244 名で昨年の 222 名を少々上回った。期間中はおおむね天候にも恵まれ最終日のみが雨店休業で、開店して朝日を全く見られなかったのは 1 日だけであった。週末は早々に定員の 50 名を超えたため、その後のお客様には淀屋橋へ移動しての観覧をお願いすることとなった。メディア掲出は、読売新聞（10/2 朝刊）、例年通り水都大阪の公式サイトでも開催告知と動画（タイムラプス）を掲載いただいた。

フェイスブックの開催告知（今年は 9/17）については、リーチ 4112 件（昨年 4374 件、一昨年 9420 件）・シェア 19 件（昨年 42 件一昨年 61 件）となっている。フォロワーは 1488 名（昨年 1291 名一昨年 1403 名）となっている。昨年試験的に行った YouTube による WEB 中継は桟橋管理 BOX の設置により景観の阻害と客席数の減少が生じたため、総合的な判断で中止とした。

スタッフについて、実施の 5 日間で延べ 61 名（12 名／日）、全日参加を申し出てくれる通称コンプリーターは 7 名となり昨年の 5 名を上回った。1 日平均約 12 名は昨年より 2 名少ない。主軸スタッフは高齢化しており、骨格を担える若手人材が現れることを祈るばかりである。

【活動写真】



【主担当】岩田理事、岸田理事、磯上委員

（3）「大阪まち遊学 2022」の企画・実施

【事業趣旨・目的】

自分が身近に生活するまち（居住地でも勤務地でも構わない）を旅人の目線で歩いてみる。普段なにげなく接しているそのまちに今まで気づかなかった魅力を発見してしまう。

その魅力をその人の視点で紹介、自慢し、再び訪れたくさせる。旅人とジモティとの出会いを生み出す新たなコミュニティ・旅のプログラムを造成しまちの活性化を促進する。

【事業内容】

大阪まち遊学 2022 の実施

2020 年以降コロナ禍で見合わせていた「大阪まち遊学」を 2 年振りに実施した。造成したコースは 3 コースに留まったが、各コースとも、案内人が土木建築のうんちくをひたすら語り続けるコース、大阪市内の商店街が数珠繋ぎになることを発見し作ったコース、案内人自身の青春時代をノスタルジックに紹介する自己中心なコースなど、相変わらず担当者の個性があふれるまち歩きプログラムを実践することが出来た。

今回はコース数が少なかったこともあり SNS に限定し情報発信を行ったが、ご来光カフェで設置したチラシを見て参加した人も何人かおり、紙媒体の情報発信も継続して続ける必要があると再認識した。

【事業成果】

以下の 3 コースを実施した。

実施日	タイトル	参加数（お客）	スタッフ参加
11 月 12 日（土）	キタク　デ　ドボク	5 名	4 名
12 月 3 日（土）	日本一長い商店街≪5.2km≫を提唱者と歩こう	10 名	5 名
12 月 10 日（土）	江坂 1980 年代の思い出の地をめぐる	3 名	4 名
合　計		31 名	

キタク デ ドボク

日本一長い商店街≪5.2km≫を提唱者と歩こう

江坂 1980 年代の思い出の地をめぐる

【主担当】脇理事、岩田理事、田尻

（4）「大阪川床・北浜テラス」の運営支援

【事業趣旨・目的】

北浜テラスは、今年は新規川床なし、3 店舗開店。コロナの影響により、キタハマミズムの運営社会実験を延期中。

【事業内容】

①各種会議

・総会（2022 年 5 月 25 日）

・理事会（原則毎月 1 回）

②テラスの設置・運営、テラス新設への支援

3 店舗の出店

・PARKING 北浜醗酵所

・MASTARD/212

・TOSA /THE BOLY OSAKA

③その他

・大阪府との北浜ミズム活用、占用についての協議

【主担当】泉理事、福田理事

（泉は北浜水辺協議会の理事、福田は監事を兼ねる）

（5）「もうひとつの旅～新潟県糸魚川市」の実施

【事業趣旨・目的】

もうひとつの旅 2022 で訪れた糸魚川市は新潟県の最西端に位置し、地質学的に本州を東西に二分する大断層線「糸魚川－静岡構造線」で知られる境界のまちである。2009 年にはわが国初のユネスコ世界ジオパークに指定され、世界有数のヒスイ産地としても有名だ。打ち上げられた小石で埋め尽くされた海岸には、長い年月をへて山から川を下ってきたヒスイの原石目当てに遠方からも「宝探し」の人々がやってくる。日本海と山々に囲まれ、海の幸や温泉などの観光資源にも恵まれて、北陸新幹線その他、交通の便もよい。

一方で、人口 4 万人弱のこのまちは長らく人口減少という最重要課題を抱えてきた。移住や U ターンによる定住促進等に力を入れてきたが、糸魚川のまちづくりのあり方を大きく見直すきっかけとなったのが 2016 年 12 月に発生した糸魚川市駅北大火である。フェーン現象による台風並みの強風にあおられ、日本海沿岸まで瞬く間に燃え広がり、焼失範囲は約 40,000 ㎡。死者こそ出なかったが被災者は 145 世帯 260 人、56 事業所に及び、火災としては初の風害による被災者生活再建支援法が適用されたほどの大規模火災となった。

この駅北地区の復興を計画するにあたり、糸魚川市は単に「災害に強い」まちづくりにとどまらず、人口減少対策をも盛り込んだ「にぎわいのある」「住み続けられる」まちづくり案を策定した。そこでその具体的な事例を知り、まちの持続的な発展につながる取組みとはどうあるべきかを学ぶため、大火から 6 年ちかく経過した現地を視察した。

また、糸魚川の中心・駅北地区とは対照的な山間の集落にある「長者温泉ゆとり館」の運営を

引き継いだ関東からの若い移住者夫妻を訪ね、「よそ者」による地域づくりについて知見を得るためお話をうかがった。

【事業内容】

・日　時：2022 年 9 月 10 日（土）～11 日（日）

・場　所：新潟県糸魚川市

＜訪問先その 1＞長者温泉ゆとり館（糸魚川市大字木浦・9 月 10 日、11 日）

1995 年開設の長者温泉ゆとり館は木浦地区の 5 つの集落のひとつ、中尾集落にある温泉宿である。中尾の住民が中心となって守ってきたが人手不足で存続困難となり、2018 年 4 月に屋村祥太・靖子夫妻が任意団体「波と母船　-nami-to-bosen -」を設立、運営を引き継いだ。もともと妻の靖子さんに雪国特有の生活の知恵に憧れがあったのと、東日本大震災をきっかけに生き方を変えたいと思うようになり、2016 年に仕事を辞めてまず靖子さんが先に移住し、2 年後に夫の祥太さんも退職して後を追い、温泉宿の管理人となった。

中尾集落の住民は“田舎”の人でありながら、温泉宿を運営してきたせいか人慣れしていて移住者に寛容、教えたがりで世話好きな面があり、遠慮なく頼るうちに“味方”になってくれ、自然に溶け込んでいけたという。インタビュー前日に挨拶と下見を兼ねて日帰り入浴に行ったがこぢんまりとした素朴な温泉で、銭湯感覚で入りに来る地元民が多く、受付を買って出たり、夫妻の小さな娘の面倒を見たりと、進んで運営を手伝ってくれることもあるようだ。

木浦地区には中尾集落も含めて山沿いの集落が 2 つ、海に面した集落が 3 つあるが、よその集落の元々の住民も交えて移住者たちと交流するうち、それぞれに異なる食文化や生活文化があることを知った。新しいものを持ち込んで地域住民が望まぬ「地域おこし」をするのではなく、この温泉宿以外にも残したいものを守り続ける「地域のこし」に特化した事業をしたいという思いを強め、2020 年 2 月に株式会社 tsuigihagi blue を設立。ゆとり館の定額制宿泊プランの開始や神楽の継承、キッチンカーによる移動調理販売など、この地域を残し、守り続ける事業を行っている。

＜訪問先その 2＞糸魚川市駅北広場キターレ（糸魚川市大町・9 月 11 日）

復興糸魚川の象徴的な施設である駅北広場キターレは、市民の交流を促し、起業や新事業創出を支援、公民連携でまちの持続的な発展を図るにぎわいの拠点であり、大火の記憶の伝承の場でもある。このキターレで糸魚川観光大使ひすいレディ・渡邊幸さんから糸魚川駅北大火の概要について説明を受けたあと、被災エリアの区長・齋藤伸一さんに出火から復興に至るまでの道のりの詳細をうかがった。さらに大火後、故郷への思いを強くして U ターンしたキターレのディレクター兼チーフコーディネーター・伊藤薫さんの案内で駅北地区を視察。景観づくりに力を入れ、再建した雁木のある糸魚川らしい街並みを巡りながら、アジアで一番の耐震性大型防火水槽や拡幅された市道、延焼を遮断する広場、木造準耐火建築の復興市営住宅など、防災面におけるまちづくりの成果を見学した。

「死者がゼロだったのは互いに声を掛け合って自主避難したという日頃の近所づきあいのおかげ。災害への備えには自助と公助、そして“近助”が必要」「被災後やむを得ずまちを出た元住民を元気づけるため、月に 1 度お楽しみ会を開き、区長や民生委員が悩みをきいている」「大火後、自分のまちがどうあるべきか若者たちの間に問題意識がめばえ、やる気を持ってまちづくりに取り組んでいる」といった齋藤区長の言葉が印象的であった。

長者温泉ゆとり館前にて

糸魚川まち歩き

1812 年創業の池田屋酒造

・参加者：岩田、岸田、田尻、福田、藤原、森、脇、岡本

【主担当】森、脇、岡本

（6）情報提供、提言活動事業

(1)～(5)の他にも、まちづくり NPO として大阪のまちの魅力を再発見・開拓し、多くの人々と共有するために、各種情報提供や提言活動への参加等を展開した。

【SNS による情報提供】

大阪まち遊学およびご来光カフェ等各種イベント開催時には、ブログのみならず Facebook、Instagram などにおいて、メンバー各自によるアナウンスが行なわれている。

①旅クラブ公式 HP の運用

旅クラブの活動を幅広く周知するため、2007 年に公式 HP（ http://tabiclub.org/ ）を開設し、運用を続けている。昨年度、大幅にリニューアルした Web システムを今年度も情報プラットフォームとして運用し、ご来光カフェ 2022、大阪まち遊学 2022 などを周知した。

PC やモバイル（スマホ・タブレットなど）といったデバイスに応じてデザインを切り替えるレシポンシブ対応としている（図 1）。

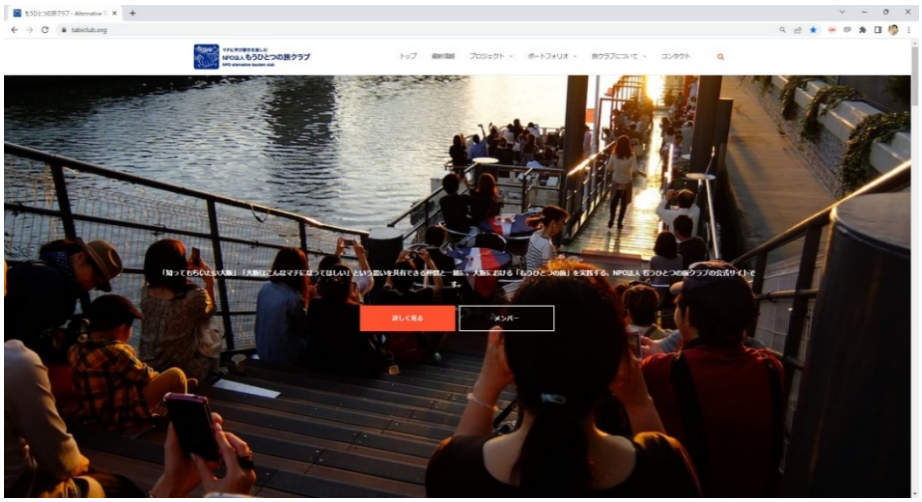


図 1　旅クラブ公式 HP（左：PC 版、右：スマホ版）

②旅クラブ公式 SNS の運用

旅クラブの情報発信メディアとして、上述した公式 HP に加えて SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を運用している。

2011 年より Twitter（ご来光カフェ）、2011 年よりフェイスブック（ご来光カフェ、大阪まち遊学。大阪まち遊学は 2021 年度よりもうひとつの旅クラブ公式として大阪まち遊学を含む旅クラブの様々なコンテンツを紹介するページに変更）、2018 年よりインスタグラム（もうひとつの旅クラブ・ご来光カフェ）、2021 年より Twitter（もうひとつの旅クラブ）、を今期も引き続き運用した（図 2）。

図 2　SNS（上段：もうひとつの旅クラブ；下段：ご来光カフェ。
左列：フェイスブック；中列：ツィッター；右列：インスタグラム）

各 SNS の URL とフォロワーなどの情報を以下に示す。

- ✓ Twitter(もうひとつの旅クラブ)74 フォロワー(前年比+10)　https://twitter.com/osakatabiclub
- ✓ Twitter(ご来光カフェ)701 フォロワー(前年比-5)　https://twitter.com/goraikocafe
- ✓ フェイスブック(もうひとつの旅クラブ・大阪まち遊学)サイト「いいね」541 件(前年比+23)
  https://www.facebook.com/osakaopentown
- ✓ フェイスブック(ご来光カフェ)サイト「いいね」1331 件(前年比+40)
  https://www.facebook.com/goraiko
- ✓ インスタグラム(旅クラブ)107 フォロワー(前年比+2)　osakatabiclub
- ✓ インスタグラム(ご来光カフェ)251 フォロワー(前年比+79)　goraiko.cafe

【主担当】藤原、磯上、福田

【メディア掲載（新聞、出版、他）】

①報知新聞（2 月 19 日）

・「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」決勝ラウンド
https://hochi.news/articles/20220219-OHT1T51267.html

②読売新聞（2 月 27 日）

・大阪面影さがし「(43) 三大橋」

③産経新聞（8 月 5 日）

・三題噺が絵本に？　笑福亭仁智「世界に飛び出すかもわかりません」
https://www.iza.ne.jp/article/20220805-JK3TTQSBWFNBDOEDV4KI3S2VKA/

④読売新聞（10 月 2 日）

・「ご来光」ビル街で満喫

大阪
面影さがし
㊸ 三大橋

「ご来光」今はビルの間から

堀川の交通網が発達していた大坂は橋も多く、「浪花八百八橋」と呼ばれた。八百八は数が多いことのたとえで実際は百数十であった。このうち幕府が管理する「公儀橋」は12で、そのほかは町人が管理した「町橋」だった。

大川には「難波橋」「天神橋」「天満橋」と三大橋が並んだ。いずれも公儀橋で、重要な交通路であるだけでなく、眺望や夕涼みの場所として親しまれ、天神祭のにぎわいなども生み出した。

幕末の錦絵「浪花百景」に描かれた「三大橋」では、手前の難波橋で行列に大砲が見えるほか、生駒山上からの日の出が描かれる。太陽の象徴とされる烏が3羽描かれている。

「ビル街になった現代でも生駒山からの日の出は見える」。大阪水上バスの淀屋橋港桟橋（大阪市中央区）では、2006年から毎年秋に朝日を眺めるイベント「ご来光カフェ」が開かれている。

市民有志の実行委員会が主催。今年も土佐堀川の向こうに見える生駒山から見事な日の出が上がった。岩田尚樹委員長(57)は「ここから見えるのは10月初旬ごろの数日間。刻々変わる水辺の表情を見るのが楽しみ」と朝焼けに見とれていた。

❶浪花百景「三大橋」（大阪市立図書館デジタルアーカイブより）
❷淀屋橋のオフィス街でビルの合間から太陽が昇るのを「ご来光」として楽しむ催しが開かれている（2021年10月4日、大阪市中央区で）

読売新聞（2 月 27 日）

土佐堀川の先に昇る朝日を見る人たち
（9月30日午前6時8分、大阪市中央区で）

「ご来光」ビル街で満喫

淀屋橋にカフェ

大阪のビル街で日の出を楽しむ「ご来光カフェ」が、大阪水上バス淀屋橋港桟橋で催されている。

同桟橋周辺は土佐堀川がほぼ東西に流れることから、秋分の日の後の数日間だけビルの谷間から昇る朝日を見ることができるスポットで、これを「ご来光」として楽しむ。

初日の9月30日は快晴で、午前6時過ぎ、生駒山から太陽がゆっくりと顔を出した。近所の人や始発電車で駆けつけた人たち約40人がその美しさに見とれ、オレンジ色の光が桟橋に届くと歓声が上がった。

近くに住む中西寧さん(62)は約10年前から毎年訪れているといい、「気持ちが晴れやかになります」と話していた。

カフェは午前5時40分～7時で、5日まで。

読売新聞（10 月 2 日）

2. 旅クラブの組織活動（組織活動の充実と強化）と財源確保

（1）組織活動、市民参加による事業促進

①会員の拡大

大阪まち遊学の参加者との交流やご来光カフェの運営ボランティアスタッフの充実などを通じ、当 NPO の活動主旨に賛同いただける方の発掘に努めた。今年度は会員数の増減は下記のとおりである。

◇2022 年度の会員数

・正会員　20 名（前年度比 3 名減、うち 1 名は名誉会員へ移行）

・名誉会員　1 名

・賛助会員　0 名（前年度比増減なし）

②組織活動

昨年度と同様に運営委員会を月例で開催し、もうひとつの旅、大阪まち遊学、その他特別な事業の企画・実施方策等を協議した。

◇総会（第 20 回）の開催

・開催日時：2022 年 3 月 19 日（土）15 時 00 分～16 時 30 分

・会　場　：「NPO 事務所（岩田尚樹建築研究所）」（大阪市中央区東平 2-3-5-3F）

・出　席　：12 名（書面出席 2 名）、欠席 4 名

・議　案　：第 20 期事業報告及び決選報告

第 21 期事業計画及び収支予算の審議

役員改選

◇理事会の開催

理事会は、2022 年 3 月 19 日（土）に 10 名参加、総会終了後に行われた。

◇懇親会の開催

総会、理事会終了後に岩田尚樹建築研究所で開かれた。出席 7 名。

◇運営委員会の開催

以下のとおり、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。今年も昨年と同じくリモート会議を併用した。

・2 月 23 日（水祝）12 名参加　・4 月 23 日（土）7 名参加　・5 月 29 日（日）7 名参加

・6 月 18 日（土）9 名参加　・8 月 13 日（土）9 名参加　・11 月 26 日（土）8 名参加

◇年末懇親会の開催

・開催日時：2022 年 12 月 29 日（木）16 時 00 分～21 時 00 分

・会場：β本町橋（大阪市中央区本町橋 4－8）

・出席：8 名

コロナ対策もあってβ本町橋をまるごと貸し切り、持ち寄りパーティー形式で開催した。

◇もうひとつの旅～新潟県糸魚川市

・9 月 10 日（土）～11 日（日）・1 泊 2 日、8 名参加。

◇浪花百景・未来景

・3 月 12 日（土）10 時～12 時（準備・4 名参加）と 13 時～15 時（内覧・6 名参加）

・3 月 13 日（日）10 時～16 時（一般公開・3 名参加）

・大阪市北区民センターにて開催。・両日とも橋爪節也先生参加。

◇大阪まち遊学

・キタク DE ドボク　　11 月 12 日（土）4 名参加

・日本一長い商店街　　12 月 3 日（土） 6 名参加

・江坂 1980 年代の思い出　12 月 10 日（土）5 名参加

（2）今後の課題

2023 年度は本 NPO の新陳代謝の源である「代表理事の交代年」であり、新体制のもと、大阪まち遊学など定着化した自主プログラムについて着実に実施するとともに、新たな活動のスタート年を期待したい。

以　上